

## 京丹後市網野町・久美浜町 EV乗合タクシー



図2 京丹後市EV乗合タクシー

バスのIT化については、大手を中心にバスロケ、デジタコ、ドラレコ、(乗降などの)センサー類といった機器の搭載は進んでいますが、運行管理者が蓄積したデータをビッグデータ解析し、効果的にPDCAを回しながら運行していくようにすれば、安全性・サービス向上に大きな効果を発揮するとともに、将来の自動運転・無人運転のベースになっていくはずです。

客貨混載については、もともと一般乗合については可能でしたが、特に昨年の9月1日からは、過疎地域・人口3万人以下の自治体において、貨物と貸切・乗用(タクシー)の相互乗り入れができるようになるという大きなビジネスチャンスが生まれました。それにもかかわらず、今のところ事業者の動きが極めて悪いことについて残念に思っています。

### 8. 閉鎖的発想と固定観念の解消に向けて

京丹後市では、EV乗合タクシーが運行されており、500円の均一料金、買い物代行、見守り代行、病院予約代行などに加えて、小荷物輸送サービスも手がけています。「ひと」「もの」「こと」の混載であり、現行法でもできる中で、ニーズ・目的から運行コンテンツを作っていた実例です。(図2参照)

一方、同市の担当者に「市が別に行っているスマホでのタクシー予約システムで、これらのサービスが予約できるようにすればいいのでは」と尋ねたところ、「その通りですが、気がつきませんでした」と少々残念な答えが返ってきました。こうした縦割り、閉鎖的なところをこれから解消・打破していかねばなりません。

あと20年もすれば自動運転、AIが本格化すると言われています。その前に、行政や地域に対して、協議会などを通じて、現行の法律や制度に基づく固定観念にとらわれることなく、IT・ビッグデータを活用し、新

## 「春の叙勲・褒章」

元日本損害保険協会会長の  
石原邦夫氏に旭日大綬章

### 当会議所関係者多数が受章

平成30年春の叙勲ならびに褒章で、日本自動車会議所の会員団体・企業関係の方々が多数、晴れの榮譽に輝かれた。

叙勲では、元東京海上日動火災保険社長で元日本損害保険協会会長の石原邦夫氏が旭日大綬章を、元日本精工社長の朝香聖一氏、元本田技研工業社長の福井威夫氏が旭日重光章を、愛知県自動車会議所副会長で元全日本トラック協会副会長の小幡銀伸氏が旭日中綬章を、日本塗料工業会副会長の長崎和孝氏が旭日双光章を、愛知県自動車会議所理事長で元新潟運輸局長の中島恒夫氏が瑞宝小綬章を受章された。

褒章では元トヨタ自動車副社長の布野幸利氏が藍綬褒章を受章された。

サービスを開発・提案・実行し、PDCAを回しながら、いかによりよいものを作っているか。それが顧客満足度と運行効率の同時向上とともに、乗務員のやる気、生きがいにもつながっていくはずだ。

### 9. まとめ

本日の講演は、公共交通の問題点の所在と、IT活用などによるソリューションがこれほどあるにもかかわらず、問題点とうまくマッチングしていない現状があること、しかしそれらを克服し、うまくマッチングができれば、明るい公共交通の未来があることをご理解いただければと思います。

これからの公共交通は、「運送業」から、公共交通というツールを使った「ライフスタイル提案」を果敢に行うコミュニティビジネスになっていくべきこと、そしてそれはITや自動運転などの強力な技術革新のソリューションの後ろ盾によって、効率的に地域住民に幸せを提供できるビジネスになっていくはずであること。それが「地域に根付いた」ということであり、それによって地域も残り、公共交通も残っていくと考えています。こうしたことを考えながら、またこれから泥臭い現場に戻っていきたいと思います。